

みんなのた場



カヌースピード・カナディアン
東京五輪強化選手

永沼 峻さん (24)

ユアテック、河北出身

目指せオリンピック 世界に挑むパドラー

平成30年10月の福井国体のカヌー競技スプリント・カナディアン成年男子シングル500mで優勝するなど頭角を現し、来年の東京五輪日本代表の最有力候補に名乗りを上げました。

永沼さんは、シングル1000mのほかペアでの出場を目指します。代表枠は3人、29年春にナショナルチーム入りを果たしてからは、ライバルのパドラー

と競い合い力を付けてきました。

永沼さんは旧河北町出身、石巻商業高校でカヌーに出会いました。2年生の終わり、東日本震災で自宅は半壊、練習していた北

上川にはがれきが大量に堆積しました。大きく傷ついた古里ですが、復興に向かう姿に励まされ、競技続行を決めました。強豪の立命館大で腕を磨き、28年にユ



真野川で練習する永沼さん

アテック(仙台)に入社しました。

カナディアンは、片膝立ちでパドルを漕ぐパワー満点の競技。永沼さんの力強く、正確なストロークには定評がありますが、海外選手と戦うと、持久力不足を痛感するそうです。「心身ともまだまだ強くなれると思います。今年は勝負の年。練習も試合も全力で挑み、自己ベストを更新していきたいです」と力を込めます。

まずは3月下旬に香川県で開かれる「海外派遣選手選考大会」に照準を合わせています。この大会での優勝を目標に、以後も東京五輪出場枠や代表選手選考に関わる試合に挑みます。

永沼さんは「地元の皆さんをはじめ、支援してくれる会社、そして日本のカヌー競技のレベルアップのためにも、ぜひ東京で思いっきりパドルを漕ぎたい」と集中しています。

石巻市立桜坂高等学校

桜坂だより

第5号

まちなかポスタープロジェクト

こんにちは。桜坂高校です。今月は、私たち1年生が行った「まちなかポスタープロジェクト」について紹介します。

これは、1年生の生徒が、2・3人の班に分かれて、学校から石巻駅までの間にある商店街に協力してもらい、お店を訪問し、インタビューを行ってその内容をもとにPRポスターを作成するというものです。

まちなかポスタープロジェクトの授業が始まったのは2学期からでした。桜坂高校は、市外から通学している生徒も多いので、生徒全員の商店街に対するイメージをそろえることができるように、訪問前に地域の概要を学びました。それから、お店での質問内容を考えたり、インタビューの練習をしたり、事前に準備を重ねました。

商店街では57店舗のお店を訪問しましたが、何代も続くお店や東日本大震災の後でできたお店などさまざまでした。お店のかたがたは皆さんやさしく接してくれて、商品のお話や、商店街のことなど、興味深い話をたくさん聞くことができました。

その後、学校で皆さんからお聞きした話の内容をもとにポスター作りを開始しました。お店の魅力を伝えるためのキャッチコピーや、お店の基本情報、おすすめ商品などの紹介を考えてポスターを作りました。

完成したポスターは、お世話になったお店のかたがたの前で発表会を行い、その後お店に届けました。

ご協力していただいたお店の皆さん、大変ありがとうございました。



長寿のひけつ

田中 善三郎さん 100歳(新成)

田中善三郎さんは大正8年1月25日、旧牡鹿町谷川浜で4男4女の長男として生を受けました。定置網などで使う漁網を作る仕事に従事し、25歳で隣の集落、泊浜出身のとみ子さんと結婚しました。

きょうだいのうち善三郎さんを含む4人が存命。とみ子さんとの間に2男2女を授かりました。現在、孫7人、ひ孫は18人います。

古里の谷川浜で暮らし、80代まで熟練の網師として活躍してきました。しかし震災の津波で、住み慣れたわが家を流しました。以降、次女家族と同居。結婚75年を迎えるとみ子さん(92)、孫、ひ孫の5人で暮らしています。



正しい日常生活を送っています。新聞を読むのが日課で、世の中全般に関心を持っていることが、心身の健康に大きな効果をもたらすようです。

耳はやや遠くなりましたが、生真面目で頑固一徹な浜の男らしい鋭い眼光は健在。とみ子さんと二人三脚でさらなる長寿を重ねていきます。

<次世代へ伝えたい食について>



次世代へ伝えたい食=郷土食。石巻の代表的なものとして、「おくずかけ」があります。昨年度実施した、市の食育アンケートでは食べて



いる割合は4割、作れる方が3割弱です。

核家族も多く、特に若い世代への継承が難しい時代となっています。

郷土料理の普及のためには、子どもや若い世代を対象に学ぶ機会を設け、ご家庭で作れるようになること、学校や保育所給食に取り入れるなどして継承を図っていく必要があります。

そのためには、家庭や地域、諸団体と行政との連携・支援が必要です。

また、石巻は、ワカメ、サンマ、ホヤ、魚などの食材が豊富な地域です。今後はこれらの食材を使った、石巻が誇る料理の開発なども期待されます。

石巻食育推進会議副会長 石巻専修大学 有見 正敏
健康推進課(内線2428)

1/27 河南 火災から文化財守ろう

箱泉寺で防火訓練



「文化財防火デー」に合わせ、市教育委員会は1月27日、北村の箱泉寺で文化財防火訓練を行いました。檀家ら地域住民、市消防団河南地区団など215人が参加しました。本堂付近で火災が発生したとの想定で、通報、バケツリレーによる初期消火訓練、文化財に見立てた段ボール箱の搬出、消防団員らが放水を実施。真剣な表情で訓練に臨み、地域の文化財を守る意識を高めました。

1/30 河北 「鬼は外、福は内」元気に豆まき

子育て支援センター

節分恒例の「豆まき会」が1月30日、河北子育て支援センターで行われました。0～4歳児21人と保護者12人が参加し、「泣き虫」や「怒りんぼ」などの悪い鬼を追い出しました。子どもたちは、段ボールで作られた赤鬼、青鬼に向かって「鬼は外、福は内」と声を上げ、ボールをぶつけました。鬼退治の紙芝居を見たほか、豆乳プリンを食べ、邪気を払いました。



1/20 石巻 子どもたち すくすく笑顔

「らいつ」開所5周年イベント

市子どもセンター「らいつ」で、オープン5周年記念イベント「らいつの日005（ゼロファイブ）」が1月20日に開かれ、子どもたちの笑顔と歓声が広がりました。「5年間を振り返り、未来のらいつを創造するためのきっかけをつくる」をテーマに、ダンスや室内スポーツ、モザイクアート作り、お菓子などが当たるビンゴ大会を楽しんだほか、1年間の活動報告、協力者への表彰も行いました。



1/20 桃生 素敵な出会いを探そう

恋活事業「もの恋」

1月20日に河北の川の上・百俵館で、ものう夢ネットワーク恋活事業「もの恋」が行われました。桃生地区在住・勤務の男性と、県内各地から集まった女性各10人が参加。ランチや地元菓子店の銘菓を味わいながら、楽しいトークタイムを過ごし、4組のカップリングが成立しました。皆さんにとって良いご縁となりますことを願っています。



1/24 雄勝 火伏せ、大漁、子孫繁栄願う

「おめつき」

230年以上前から続く伝統行事「おめつき」が1月24日、名振地区で開かれました。住民やボランティアの男性が、長さ5㍍、重さ600㌔の山車を左右に威勢よく振りながら地域を練り歩きました。加えて秋葉神社氏子会がユーモア満点の寸劇を披露、火伏せや大漁、子孫繁栄などを願いました。厳冬の中、今年も住民の笑顔あふれる1日となりました。



1/20 牡鹿 心身のバランス ゆったり整え

牡鹿ヨガサークル

牡鹿ヨガサークル（松村香織代表）のヨガ教室が1月20日、牡鹿交流センター「ほっとまる」で開かれました。昨年12月に発足し、会員は20人です。認定インストラクターの武山真希さんを講師に、基本から学んでいます。松村代表は「心身のバランスを整え、ゆったりとした時間を過ごせます」と、笑顔で話します。今後、月1回を目安に開催していきます。



1/15 北上 新集会施設で楽しくプレー

北上公民館卓球教室

北上公民館の卓球教室が1月15日、相川地区コミュニティセンターで行われ、22人が和やかな雰囲気の中、冬場の体力向上に努めました。昨年11月に開講し、好評だったため、今年も継続開催になりました。相川コミュニティセンターは昨年4月に完成した施設で、世代間交流や地域コミュニティ形成の場として大切に使われています。

